

こどもたちの輝きをみつける

～不登校、インクルーシブ教育・支援について～

香川大学教育学部
香川大学バリアフリー支援室
教育学部附属特別支援学校

坂井 聡

1

インクルーシブ教育とはすべての子どもの教育を受ける権利を保障すること

- ・「インクルーシブ教育とは、多様な子どもたちの教育を受ける権利を地域の学校で保障するために、教育システムそのものを改革していくプロセス」
- ・学校に通う子どもたちは多様であるということが前提
- ・特別支援教育はとても重要
- ・「多様な子ども」とは、障害の有無に関係なく、性的マイノリティの子ども、外国にルーツのある子ども、ヤングケアラーの子どもなど支援が必要な子どもを含む

2

子どもの学ぶ権利を平等に保障しているか

- ・いわゆる「主流」の子どもを中心とした学校は、そうではない子どもにとっては公正な場とはいえない
- ・どんな子どもも平等に教育を受ける権利がある
- ・多様な属性の子どもたちが考慮されている学校になっているか

3

日本におけるインクルーシブ教育システムには

- ・多様な子どもが共に学び、必要な合理的配慮が提供されるインクルーシブ教育システムの構築が必要
- ・「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」では、インクルーシブ教育システムでは可能な限り障害のある子どもとない子どもが共に学ぶことを目指すべき（文部科学省2012）
- ・多様な子どもが、学習活動に参加している実感・達成感を持ち、充実した時間を過ごし、生きる力を身に付けることができる環境整備が必要
- ・ただ場を共にするだけでなく、活動に参加するために必要な合理的配慮や環境整備がなされることが大切

4

※障がいの『害』の表記について

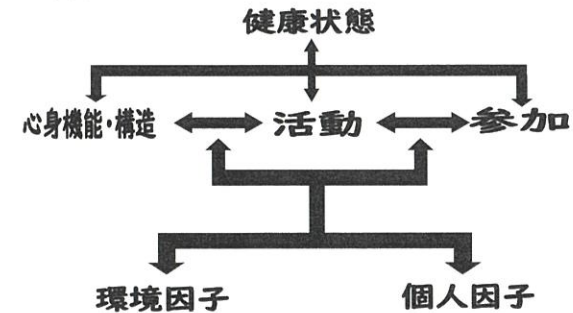
大阪府では、本来ひらがな表記としていますが、今回は事由により漢字表記としています。

ICIDHからICFへ —WHO(世界保健機関)の障害分類—

- 1980年に定められたICIDHでは
 - ・ 機能障害→能力障害→社会的不利 の一方通行
 - ・ 社会的な環境や物理的な環境の役割を反映していない
- 2001年に公表されたICFでは
 - ・ 生活機能と障害は、心身機能と構造、個人レベルの活動、社会への参加の次元を表す包括的用語として
 - ・ 障害は健康状態と背景因子との相互作用ないしは複雑な関係と考える

5

ICFの概念図



6

もう一度確認します

●特別なものから誰もがもつ状態としての障害へ

障害を経験したことがありますか？
活動の制限や参加の制限を障害ととらえるようになってきています

障害という枠を超えてみると支援のアイデアが浮かんでくる

例 視覚障害とTV電話
知的障害とメモ

7

参加できる、活動できる

- ・ 環境が整えば障害はなくなる
- ・ 環境を作るのは私たち
- ・ みんなが参加できる環境を作る

8

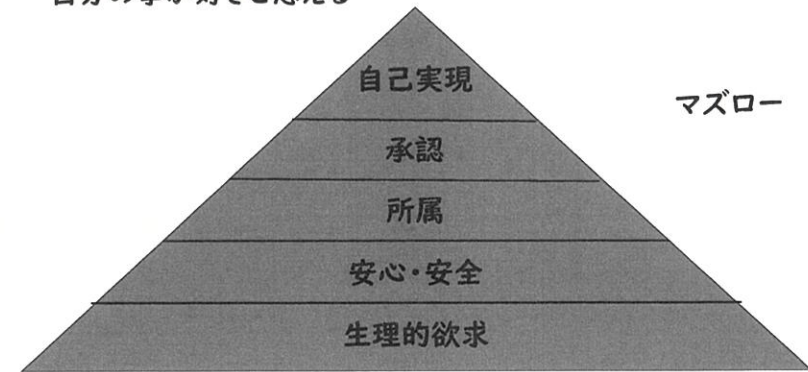
必要な技術は？

- コミュニケーション
- 社会性
- 想像力

9

自尊感情（セルフエスティーム）

自分は大切な存在・周囲から愛されている、認められている、自分の事が好きと思える



10

セルフエスティームを高める

- セルフエスティームとは
 - 自己のイメージに対して自分の価値を評価し、自分を大切にしようとする気持ち
- できていることを当たり前だと思われることでも認めることから
- 視点を変えてみることで
 - 10分しか集中できない子ではなく、10分も集中できる子

11

セルフエスティームを高めるためには

- 認めるときはみんなの前で
- 注意するときは個人的に
- 指示は具体的に、そして短く
- 人格を否定しない
 - 「なにばかなことやっているの」
- 適切な行動を教える
- 共感するために、それを言葉にする

12

気合で頑張れるか？

- 意欲がわからないと
 - 根性のない、意志の弱い人間だ
 - 性格的に問題があるのでは？
- やらないといけないとわかっているけれど、やりだせない
 - やらなければという意味もある
 - わかってもいる
 - でもできない
- 先生はできているのか？

13

無気力は学習の成果

- 学習性の無力感
 - 自分から動かない方が無駄なエネルギーがいらないと学習
 - 環境への適応の結果
 - 汎化しやすい
- 生まれつき無気力な子どもはいない
 - 意欲はどこへ行ったのか？
- 相対的な評価をすると
 - 本来の位置は変わらない
 - 他人以上にすることによって評価される仕組みになるということ

14

意欲を出すために必要なもの

- 意欲が出るには理由がある
- 周囲の環境
 - 意欲が出る環境とは？
- 解釈の仕方
 - 意欲につながる解釈とは

15

意欲が出る環境は

- 行動の結果がポジティブに反映される環境
 - できるかなモデル
 - 失敗で終わる環境では意欲はわからない
- 確率は同じでも
 - 自分でやった方が当たる確率が高くなる？
 - 自分でやる方が意欲的になる
 - 錯覚や幻想があれば意欲につながる
- できるようになるという考えの末路
 - 努力してもできないと
 - 自己肯定感の低下
 - 「がんばれ」といわれてももう無理
 - 自分のことを客観的に知ってしまうと無気力になる

16

うまくいったときの対応が重要

- 原因をどこに求めるのか
 - 行動を起こす意欲がダメージを受けないような対応を
 - 運がよかったねは・・・
 - 成功場面でどこに原因を求めるのかによって意欲は左右
- うまくいったら内的要因に
- うまくいかなかったら外的要因に

17

うまくいくかいかないかを左右するもの

- 努力（内的な要因）
- 能力（内的な要因）
- 気分（内的な要因）
- 体調（内的な要因）
- 指導者の声掛け（外的な要因）
- 指導者の指導力（外的な要因）
- 協力（外的な要因）
- 課題の難易度（外的な要因）

18

原因によって

- 安定しているものは、期待を左右する
- 内的要因と外的要因は感情を左右する
- 原因を考えて次のステップに
 - これがあればできるでいいのでは
 - 社会に合わせるということではうまくいかない
- 統制可能なものと統制不可能なもの

19

主観で考えてもよい

- もっと自分を客観的にというけれど
 - できない自分を客観的に見たら自分に対する期待は低下する
 - 不安定な要因に原因を求めてもよい
- ポジティブなことは安定的な要因に
- ネガティブなことは不安定な要因に

20

意欲は

- 普段の努力
- 期待があること
- コストが低いこと
 - ・こちらが思っているコストと学校の感じるコスト
- 「がんばるだけではだめ」
 - ・望む結果にどうつなげる
- コストを低く抑えて、できそうなことから継続できる環境を整えること
- 近接目標を考えること（スモールステップで）
- 具体的な目標を少しずつステップアップ

21

努力できなかった時の対応は

- 期待による
 - ・期待が大きくて、努力しなかった場合
 - ・期待が大きくて、努力した場合
 - ・期待が小さくて、努力しなかった場合
 - ・期待が小さくて、努力した場合
- 言い訳の理由
 - ・自己を防衛するため
 - ・心理的なダメージを最小限にしたいから
 - ・「言い訳ばかりするな」の問題
 - ・何とかできるように環境を修正してみる

22

視点を変えなきゃ

- その子はどう考えているのだろうか？
- その子が、何に困っているのかを考えてみる。
- 私がアプローチを変えることから
 - ・その子を理解しているのかな？と考えることから

23

生まれてきてよかったといえる社会に

- 障害についてもう一度考える
- 教育が夢や希望を与えられるか
- 環境が障害を作り出していることに気づく

24